

手術部サテライトファーマシーにおける麻酔薬の無菌混合調製体制の確立

○山崎 浩二郎¹, 須田 範行¹, 新沼 朋美¹, 水口 貴史¹, 小林 正紀², 山田 勇磨², 山下 美妃³, 柴山 良彦², 山田 武宏¹, 井関 健^{1,2} (¹北大病院薬, ²北大院薬, ³北海道薬大)

【目的】北海道大学病院では、麻酔科医師の業務負担の軽減と医療安全への貢献を目的として、2010年4月より専任薬剤師1名、兼任薬剤師1名を配置し、サテライトファーマシー（以下、サテライト）を構築し、手術部業務へ参画した。麻酔科医師の支援業務の1つとして、サテライトにおける麻酔薬の無菌混合調製体制を確立し、一定の効果が得られたので報告する。

【方法】手術データ管理システムによる麻酔薬オーダーシステムを構築した。麻酔薬のオーダーは、すべて麻酔科医師と薬剤師であらかじめ協議し、セット化したものを用いた。1例目の手術は薬剤師が麻酔薬の処方監査と計数調剤のみを行い麻酔科医師が調製、2例目以降は薬剤師が処方監査から計数調剤、無菌混合調製まで実施することとした。これまですべて麻酔科医師のみが行ってきた術前の準備段階において、薬剤師が関与した効果を、麻酔科医師の業務軽減時間、インシデント件数等により評価した。

【結果・考察】麻酔薬オーダーシステムの稼働開始後より、その利用率は増加し、定期手術のほぼすべての麻酔薬の計数調剤あるいは調製に薬剤師が関与できるようになった。これにより、麻酔科医師の業務を1日当たり約3時間軽減できた。また、薬剤師が薬学的な観点から情報を管理し処方監査を行ったことにより、アレルギー既往のある薬剤の投与を未然に防ぐなど、手術部業務のインシデント件数の減少につながった。以上のことから、薬剤師による麻酔薬の無菌混合調製体制を確立する事により、医師の業務支援につながるのみならずリスク管理の面でも有用である事が示された。